

平成6年、建設省退職後、(財)民間都市開発推進機構へ就職、平成14年退職。

## 「四国遍路の新たな宿泊施設についての提案」

私は、今年の5月中旬から6月末までの45日間サンティアゴ巡礼のため北スペイン地方を歩いてきました。巡礼を行った動機はテレビの世界遺産の番組を見たのがきっかけで私も中世のスペインの趣が残っている古い小さな村々を歩いて廻って行く旅を何時かはしてみたいと思いました。今年サンティアゴ巡礼が実現してフランスのピレネー山脈の麓の村からスタートした時はなんだか夢見心地の状態でした。スペインの日陰のない広い麦畑の中を一人で歩いているといろいろな事を思い出したり考えたりしてしまいます。日本にもサンティアゴ巡礼に負けない四国遍路があり、20年前には高松に住んで四国の建設行政に携わったことがある者としては巡礼路を歩いていると四国遍路と比較して考えてしまいます。サンティアゴ巡礼には世界の国々から大勢の人達が訪れ、安価な料金で泊まれる「アルベルゲ」という宿泊施設を毎日利用して旅を続けます。そして年間6~7万人の巡礼者達は約800キロの距離を歩いて最終目的地であるサンティアゴ・デ・コンポステーラを目指します。巡礼路は国によって整備されて、地元の人達によって下草も綺麗に刈り取られ安全で楽しい旅をすることが出来ます。宿泊するアルベルゲですが、これは地方自治体、宗教団体、私設等がそれぞれが管理運営をしており、一泊が千円以下で利用できます。アルベルゲは全ての村に在るわけではありませんが少し大きい村には設置されていて予約をする必要はなく利用することができます。巡礼者はその日の体調によって宿泊地を決めます。また、目指すアルベルゲが満員の場合は次の村のアルベルゲまで行くか或はホテルや民宿があってそちらも予約はなしで泊まることができます。アルベルゲは大きい施設でも収容人員は100人程度で、設備は広い室に2段ベッドが並べられていて、便所とシャワーそれから自炊ができる台所が付いているだけです。食事ですが、夕食は近くのレストランで巡礼定食が千円程度で

食べられ、朝食と昼食は BAR という喫茶店のような店でコーヒーや軽食を摂るか、あるいはスーパー等で食品を求め何処か適当なところで食べます。

四国遍路についてしてみると、四国八十八ヶ寺の巡礼に年間で 10～20 万人の遍路が四国を巡っているようですが、その大半は車やバスを利用していて遍路の本来である「歩き遍路」は 1,000 人程度だそうです。「歩き遍路」は四国の美しい自然と地元の人達のお接待の文化に触れ、人の温かさに感動し、自分という人間・人生を再認識できる旅です。

四国遍路について私自身に体験がないためにホームページで体験談を読んでいましたら、『歩いているとき適当な所に宿を見つけることが割合に難しい。見つけた民宿は大抵の場合お年寄りがやっている。若い人がほとんど見当たらない。この状態が続くと民宿はなくなり、歩き遍路の場合野宿を余儀なくされるようになる可能性がある。』とあり、近い将来には「歩き遍路」の姿を見ることは難しくなるのではないかと危惧していました。遍路をするうえで一番大切なのは宿泊です。しかも四国遍路の場合は 3 日先までの宿は予約をしておかなければならないそうです。「歩き遍路」が毎日予定どおりに歩けるとは限りません。その日の体調あるいは足の具合によって歩く距離は違ってきます。

四国遍路にもサンティアゴ巡礼地にあるようなアルベルゲの制度をぜひ取り入れて頂きたいと思います。宿泊施設の充実が「歩き遍路」の増加につながり、それに伴う四国四県の観光事業にも大いに貢献すると思います

これからは団塊の世代と呼ばれる人達の退職を迎え、そのなかで心の整理を必要とする人のためにも四国遍路は重要で益々盛んになってくると思います。そのためにも四国遍路に関係する県・市町村そして宗教団体に対して宿泊施設の充実についてアルベルゲ制度の取入れを提唱します。